

はじめに

このたび、平成30年度の業務内容および調査研究の成果を、「福井県衛生環境研究センター年報（第17巻）」としてとりまとめました。

当センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」、および「情報の収集・解析・提供」の4つの役割を軸に業務を推進しています。

また、「福井県公設試験研究機関評価等評価ガイドライン」に基づいて外部評価委員による機関評価を受けており、その評価結果および各意見を業務の推進に活かしています。

調査研究においては、外部評価委員による研究課題評価を受けており、その評価結果および各意見を踏まえ、県民および行政ニーズに即したテーマの創出に努めています。平成30年度には、新たに「毒キノコによる食中毒の検査体制の構築」など5つのテーマに取り組みました。

試験・検査・測定については、全国的な麻しん・風しんの流行に伴い、県内でも検査件数が増加しましたが、迅速に対応するとともに、嶺南地域で発生した化学工場での火災等の事故に対しては、現場における大気環境の緊急モニタリングによって生活環境への影響について調査を行い、地域住民の不安の払拭に努めました。また、水環境基準の「底層D0」について、県内の湖沼での測定を開始したところであり、今後も引き続きモニタリングを実施していく予定です。

今後とも、県民の健康と生活環境を守るための試験および調査研究機関ならびに健康危機管理対応機関として、関係機関と緊密な連携を図り、県民および行政の新たなニーズにも可能な限りの的確に応えていく所存です。

本年報の「Ⅱ 業務報告」では、部・室ごとに平成30年度の業務実績を掲載し、また、「Ⅲ 調査研究」および「Ⅳ 発表抄録」では、これまでに実施した調査研究の結果ならびに学会等での発表の抄録等を掲載しています。

こうした成果については、ホームページや広報誌などを通じて分かりやすく情報発信するとともに、一般県民や小中学生向けの衛生・環境教室等を積極的に開催し、当センターの業務に対する認識と理解を深めていただけるように努めてまいりますので、引き続き御理解と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和元年12月

福井県衛生環境研究センター所長 徳山 郁弘